九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

歴史と環境 ： 歴史地理学の可能性を探る

溝口, 常俊
名古屋大学大学院環境学研究科 ： 教授

阿部, 康久
九州大学大学院比較社会文化研究院社会情報部門 ： 准教授

https://hdl.handle.net/2324/1398514

出版情報：2012-12-20. 花書院
バージョン：
権利関係：

第12章

バングラデシュの宝飾品産業

―― オールドダッカの集積と地方への拡散 ――

土　屋　　純

本論文では，バングラデシュにおける宝飾品産業の実態について報告する．宝飾品産業に注目する理由は，①宝飾品産業はバングラデシュにおける伝統的産業の１つであるが，近年の経済成長の中で大きな変化が見られること，②イスラム教徒が中心のバングラデシュ社会の中でヒンドゥー教徒によって占められた産業であり，伝統的な技術の伝承がヒンドゥー社会によってなされていること，の２点である．

バングラデシュといえば貧困国のイメージが高く，農業が中心の経済であると理解されていることが多い．しかし，さまざまな伝統産業が存在しており，土器，アルミ食器，竹細工，宝飾品，サリーなど幅広い．また近年では，ダッカを中心として縫製産業が急激に発展しており，国内販売だけでなく海外輸出が増加した結果，人々の生活水準も徐々に向上している．

加えて，バングラデシュはイスラム社会であると理解されているが，人口の約10％のヒンドゥー教徒が存在しており，その宗教的な伝統を守りながら生活している．マイノリティであるヒンドゥー教徒にとって，宝飾品産業は多くの現金収入が見込める仕事として人気があり，生業とするカーストだけでなく様々カーストが参入している．宝飾品産業に注目することによって，バングラデシュにおける今後のヒンドゥー社会のあり方について考えることができる．

本報告では，まず，宝飾品産業という伝統産業の現状について報告する．2000年以降における経済発展の中，宝飾品産業も大きく変化してきている．特に，①オールドダッカにおける宝飾品産業の集積状況と地方からの労働者流入について，②農村地域の商店街における宝飾品店の経営状況について，の２点について詳しく検討し，宝飾品産業の現状と今後の展開について検討したい．

１．バングラデシュ社会における宝飾品の位置づけ

バングラデシュでの宝飾品には，専門店で販売される金や銀を材料とした高級品と，雑貨店でも販売されるプラスティックなども原料とする低価格品がある．

高級品は，富裕層を中心として購入されるものであり，ネックレスや指輪など金や銀を原料とした細かいデザインを施したものが中心となっている．ダッカ市内には宝飾品を取り扱うショールーム（写真１）が数多くある．ニューマーケットなどの商業集積地域や，近年増えているショッピングセンター内，または商店街の中などに立地している．

そして，高級品は結婚式の際に購入されるものである．ヒンドゥー教徒では，結婚式の際のダウリの品として宝飾品を準備することが多い．貴金属で製造された装飾品は，新しい家族にとって貴重な財産となるので，親世代が苦労して購入する．貧困層でも娘が結婚する際には無理をして購入することがあるという．最近では，人口の大半を占めるイスラム教徒も結婚式に宝飾品を購入することが多くなっているようだ．

また，金製や銀製の宝飾品は貴重な財産でもある．まとまったお金が必要となった場合に，街にある宝飾品店に売却する．宝飾品店では，買い取った宝飾品を原料として再利用する．このように，宝飾品のローカルな売買とリメイク市場が成立していることも，宝飾品産業が社会的に定着している理由である．

写真１　ダッカ市内のショールームの様子

一方，低価格品は，雑貨店等で販売されるもので，貴金属を原料としないアクセサリーである（写真２）．土屋（2011）でも報告したように，概してバングラデシュでは買物や仕事などの外の活動は男性の役割であるが，近年では若い女性たちが気軽に商店街で買物するようになっている．また著者が何度も訪れているタンガイル県バシャイル郡カンチャンプール村でも，幼稚園や小学校に通う子どもたちが，ピアスや指輪を楽しんでいる様子をみることができる．

商店街の雑貨店では化粧品や低価格のアクセサリー，プラスティック製の髪留めなど充実している．市場においても行商人がアクセサリーを売る姿がみられる．そうしたアクセサリーはインドや中国から輸入されてくるものが大半であり，極めて低価格である．このように，子どもから大人まで幅広くアクセサリーを楽しめる状況が形成されている．

２．2000年代におけるバングラデシュの経済発展と宝飾品需要

2000年代のバングラデシュは経済成長期である．首都のダッカだけでなく農村地域においても生産と流通が盛んになっている．バングラデシュは最貧国から抜け出しつつあるといえる．

ではなぜ経済成長しているのか．第一に，繊維産業の縫製産業の発展が著しく，アメリカや中東諸国などの諸国への輸出が盛んになっているためである．縫製産業の大半はダッカ大都市圏内に立地しており，ダッカの都市経済

写真２　ダッカ市内の雑貨店での低価格品の販売

を牽引している．その結果，工場経営者などの資本家階級が存在感を増しており，耐久消費財などの消費が活発になっている．また，女性労働力が積極的に活用されるようになった結果，各世帯の収入増加にもつながっているのである．その結果，ダッカ都心部には巨大なショッピングセンターが建設されるようになり，チェーン展開するスーパーマーケットも見られるようになっている．

第二に，農村地域では海外へ出稼ぎする労働者が増えており，海外から資金が流入している．海外出稼ぎ先としては，サウジアラビア，アラブ首長国のドバイといった中東諸国と，シンガポールやマレーシアといった東南アジアの主要国である．建設労働やサービス業などの底辺労働力として働いているわけであるが，バングラデシュとの賃金格差が大きいため農村に大きなインパクトを与えている．その結果，海外からの送金を基として自営業を始める人も多く，縫製工場や煉瓦工場など様々な業種が増えている．そして農村地域においても商店街の発展がみられ，食料品や医薬品といった生活必需品だけでなく，化粧品や宝飾品，音楽 CD や携帯電話など，様々な商品が販売されるようになっている（土屋，2011）．

このような経済発展は，宝飾品需要を確実に増加させている．ダッカでは繊維産業の発展によって，労働力として女性が活用されるようになった．1990年代までのダッカは商都であり，商業やサービス業，公的部門が中心であった．また疑似都市化が凄まじく，スラムも多く存在していた．大半の女性は対面接客の仕事を嫌うので，1990年代まで貧困層以外の女性は労働力としてほとんど活用されていなかったのである．工場労働という対面接客が必要としない労働には女性が参入しやすいといえよう．

そして，農村部では現在でも女性の仕事は少ないが，公的教育だけでなく NGO による様々な教育機会によって，若い世代から女性の意識が変化してきている．また出稼ぎ先からのマネーの流入は，女性たちの消費意識を高めている．このような女性の社会進出と，女性の意識変化によって，宝飾品の需要が増加している．

３．オールドダッカにおける宝飾品産業の集積

ここでは，バングラデシュ最大の宝飾品産業集積地であるオールドダッカにおける状況を説明したい．バングラデシュにおいて宝飾品産業が集積して

いるのはオールドダッカとチッタゴンである．チッタゴンの集積は規模が小さいため，オールドダッカはバングラデシュの宝飾品生産の拠点ということができる．

1）オールドダッカの様子

ダッカは元々水運によって発生した街である（写真３）．ベンガル地域は古くから南アジア有数の穀倉地帯であるので，農産物を中心とした物資が集まるダッカはベンガル最大の街であった．一方，インドの西ベンガル州都のコルカタはイギリス政府の統治拠点になったことによって発展した町である．

オールドダッカは，ダッカ市の南端に位置し，プリコンガ川の船着き場を起点に町並みが発展してきた．オールドダッカには細い路地と大小さまざまな建造物に構成され，猥雑な町並みが広がっている．ムガール朝時代からの宮殿やモスクが存在するだけでなく，手工業と商業が集積した職住一体の町並みが形成されている．

オールドダッカの一角，ヒンドゥー教徒が多く集まっている地域には，宝飾品産業が集積している．数千，数万の宝飾品製造業者が存在すると言われており，大小様々な建築物の内部には無数の製造業者が存在している（写真４）．また，オールドダッカの商店街には多くの宝飾品販売店が存在しており，加えて，インドから仕入れたデザインブックや工具などを販売する業者向け店舗も存在している．

写真３　オールドダッカの位置

写真４　オールドダッカにある宝飾品工場が入居しているビル

２）オールドダッカにおける宝飾品産業

まず，工場の内部を見てみたい．写真５はオールドダッカに見られる工場の典型例である．この工場では35名の工員が所属しており，10代前半の見習いから30代の熟練工も存在している．それぞれの工員は小さなテーブルを用いて作業を行っており，金や銀を原料として指輪やイヤリングといった小物から，細工の細かいネックレスなどを生産している．

大半の工場は，ダッカ市内に存在する宝飾品のショールーム（宝飾品販売店）から受注している．各ショールームからの発注を受け，ネックレスや指輪などを製造している（オーダーメイド）．それぞれの工場は特定のショールームと専属契約をしている場合が多く，工場が複数のショールームと契約を結ぶことは少ないという．

３）宝飾品の製造工程

続いて，オールドダッカでの宝飾品の製造工程を見てみたい．図１は，貴金属等を原料とした高級品の製造工程を示したものである．宝飾品の製造工程には，①発注，②溶解・分離，③圧延，④鋳造，⑤組立，⑥研磨，⑦色付，⑧出荷の段階が存在する．多くの工場では組立，色付を中心として大半の工程を内包しているが，溶解・分離，鋳造や研磨の工程では特殊な技術が必要とされていることから小規模の専門業者も存在している．

写真５　オールドダッカの宝飾品工場の様子

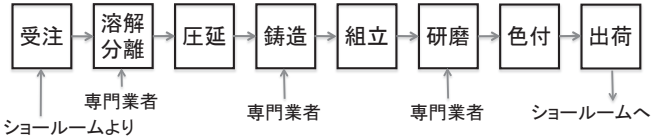

図１　宝飾品の製造工程

溶解・分離工程では，金塊等を溶解することと，既製品から金，銀や銅に分離していくことである．分離工程では専門業者が存在し，宝飾品店や工場から持ち込まれた既製品から純度の高い貴金属に分離している．

圧延工程では，金や銀を薄く板状に延ばしたり，棒状に延ばしたりする工程である．規模の大きい工場では圧延するための機械を備え付けている場合が多い．小規模の工場では，機械を所有している工場に出向いて圧延してもらう．その際に利用料は支払わなくて済むのであるが，それは圧延の課程で機械に細かい金属が付着しているからである．

鋳造工程では，ネックレスやイヤリング用の細かいパーツを型出しする工程である．写真６はある工場が所有する数千種類のダイシ（金型）である．このダイシを利用することによって様々な形のパーツを型押し出すことができる．このようにダイシを数多く所有する工場は少ないので，さまざまな工場から注文を受けることができる．

組立工程では，細かいパーツを組み立てていく工程である（写真７）．この

作業は極めて労働集約的な工程であり，技術度が高く，経験がものをいう工程である．多くの労働者は出来高制で給与が支払われているが，複雑な組立を行える労働者は単価が高くなる．

色付工程では，さまざまな化学薬品も用いて色つけしていく工程である．ある工場では，特殊な色つけをするためにコルカタに材料を仕入れにいくという．色つけ工程で特色を出し，ショールームとの契約に結びつけている工場も存在している．

４）労働力の確保

こうした工場で働く工員たちは，ヒンドゥー教徒がほとんどである．最近

写真６　ダイシを多く所有する工場

写真７　組立作業の様子

ではイスラム教徒も参入も見られるようになった．金属加工を生業とするカーストであるコルモカールがほとんどであったが，最近ではカパリなどの農民カースト，ラズボンシなどの漁民カースト，パルなどの職人カーストなど様々なカーストが参入している．このようにカーストの多様化が進んでいるのであるが，それぞれのカーストの生業では十分な稼ぎを得られないことから，宝飾品製造の世界に参入してくるのである．そして，多くの労働者は地方から単身やってくるものが多い．地方では仕事が多く存在しないことから，ダッカでの仕事を求めて参入してくるのである．

ではどのように宝飾品産業へ参入してくるのか．大半の労働者は10歳代中頃から参入する者が多く，親戚や知り合いの紹介で工場に就職していく．就業から２年間ほどは住居食事付きの修行の状態で，先輩工員のサポートやさまざまな雑用をしている．技術訓練は就業中に行われ，年を経るとともに技能を身につけていく．組立等の技術を習得すると，出来高制で給与が支払われるようになる．平均月収は5,000～15,000タカと幅広く，技術が高い工員ほど単価が高い．また，結婚式シーズンなど受注が多い時には残業が多くなり，その結果として給与が増える．一日の労働時間は，注文数に応じて変動しているが，概して長時間である．朝の９時から夜の23時まで続けることが多いという．休日は週１日である場合が多い．

また，技術の高い労働者は他の工場から引き抜きされることも多く，開業資金を蓄えた者は独立していくものも存在する．数名の工員へのインタビューによると，将来独立を目指す者とこのまま工場勤務を続ける者は半々であった．兄弟で同じ工場で働いている者は，将来故郷に帰って自分の宝飾品店を開きたいという．このまま工場勤務を続ける理由としては，子どもの教育を考えるとダッカで生活していきたいという意見も存在した．

４．地方都市の商店街における宝飾品店の実態

近年，ダッカ近郊の農村地域では，さまざまな業種の工場進出が見られる．ダッカ遠郊の農村地域でも，海外出稼ぎによる送金によって生活が豊かになっており，嗜好品の消費が拡大している．土屋（2006）は，タンガイル県ミルジャプール郡の郡都ミルジャプールの商店街について，商店街の拡大と宝飾品店の実態について報告した．2007年以降調査したタンガイル県バシャイル郡内にある各商店街の例も紹介しながら，宝飾品店の実態について報告

したい．

１）バシャイル商店街の様子と宝飾品店の分布

図２は，バシャイルの商店街の様子を示したものである．商店街の中には市場があるほか，郡庁舎，国立病院，モスク，銀行なども立地している．また，バスターミナルにもなっており，タンガイルやミルジャプールへの乗り合いバスが停車するだけでなく，ベビータクシーやリキシャなども集まる．バシャイル郡のほぼ中央に位置するバシャイルは，中心地としての役割が高い場所といえる．

バシャイル商店街の業種構成を見てみると（表１），食料品，衣料品・靴など日常生活にかかわる商品を取り扱う商店が多く，宝飾品店など高価な商品を取り扱う店，医薬品店，理容店などのサービス店，さらにさまざまな作業場も存在する．このように宝飾品店は地方都市の中心商店街において中心的な業種であるといえる．さらに商店街内における宝飾品店の分布を見てみると（図３），特定の場所に店舗が集中している一方で，単独立地している店舗も存在する．

集中立地している店舗では，その経営者のほとんどがコルモカールであった．商店街の近くにコルモカールの集落（バリ）があり，かつて市場等で行

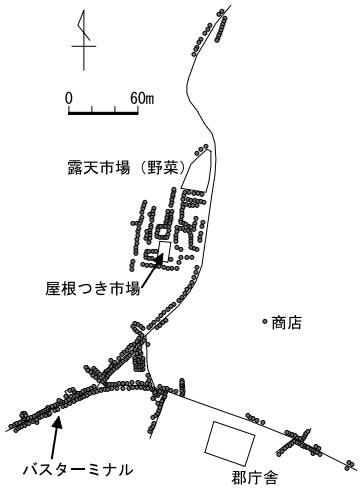

図２　郡都バシャイルの商店街の様子

表１　バシャイル商店街の業種構成

	店舗数	割合
雑貨・化粧品	33	7.07%
食料品	80	17.13%
衣料品・靴	75	16.06%
医薬品	26	5.57%
宝石	21	4.50%
飲食店・菓子店	37	7.92%
サービス	36	7.71%
作業場	116	24.84%
その他	33	7.07%
合計	467	100.00%

現地調査による

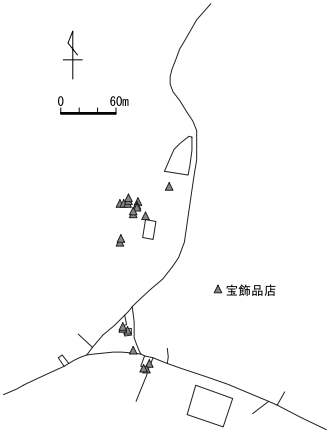

図３　バシャイル商店街における宝飾品店の分布

商していたものが多いが，商店街に常設店舗を構えたケースが多い．中には，親が店舗を守りつつその子どもがオールドダッカで修行に出ているケースも見られる．このように，金属加工を生業とするカーストによる再生産の構造が見られる．

一方，単独立地している店舗の場合，その経営者がコルモカール以外のヒンドゥー教徒である場合が多かった．彼らは，受け継ぐべき生業が低収入である場合が多く，10代半ばでオールドダッカなどの宝飾品の工場で修行し，技術を習得した段階で故郷の商店街で開業する場合が多い．

このように，地方都市の商店街ではヒンドゥー教徒によって宝飾品の販売

が行われている．イスラム教徒の宝飾品店は皆無ではないがきわめて少数である．オールドダッカを中心としたヒンドゥー教徒による宝飾品製造の技術再生産の仕組みによって，イスラム教徒が参入しづらい状況が存在している．

２）各宝飾品店の経営状況

写真８は，郡都バシャイルの商店街に存在しているある宝飾品店の様子である．工場を兼ねた店舗で，店主と数名の従業員が製造販売しているものがほとんどである．小規模のものが多いので，オールドダッカのように製販の分離は進んでいない．農村部には大小さまざまな商店街が存在するが，宝飾品店が存在するのは大・中規模の商店街である．特に，郡都にあるような大規模の商店街には，数十店の宝飾品店の集積が見られる．

インタビューによると20代後半から開業したものが多く，その大半はオールドダッカの製造工場で就業した経験をもつ．宝飾品店の経営者はヒンドゥー教徒がほとんどであり，カーストではコルモカールが多い．ミルジャプール，バシャイル双方ともに，商店街のなかに集積地域が存在するが，そうした宝飾品店の経営者はコルモカールである場合が多くなっている．

写真８　作業場を兼ねた店舗

商店街の宝飾品店の場合は，既存の宝飾品を原料とする場合が多いようである．金の延べ棒を仕入れて加工するというよりも，人々の宝飾品がリメイクされて販売されている．ミルジャプールには大きな集積地が存在するので，規模の大きい宝飾品店では金の延べ棒を原料としている場合が見られるが，大半の店舗ではローカルに仕入れた原料でローカルな市場に販売しているのである．

このようにバングラデシュの宝飾品産業は，ローカルな循環の中で展開されている．農村地域のような低需要地域でも経営が成り立つのである．宝飾品店は商店街の中で衣料品販売店，医薬品店と並ぶ売上が多い業種である．また，地方の宝飾品店では，店主がオールドダッカに出向き，製造用の原料や道具類，そしてデザインブック（写真９）を購入しているという．すなわち，修行の場であったオールドダッカに依存しながら宝飾品の製造販売が行われているのである．よって，バングラデシュの宝飾品産業はオールドダッカを中心として成立していることがわかる．

５．伝統産業である宝飾品産業の行方

上述のように，バングラデシュの宝飾品産業はヒンドゥー社会を中心として再生産構造が構築されている．今後，宝飾品産業はどのような方向に向かうのであろうか，著者の考えをまとめたい．

第一に，さらなるヒンドゥー教徒向けの労働市場の流動化である．近年，宝飾品産業に限らず職業とカーストの関係は曖昧になっている．特に，農民

写真９　デザインブック

カーストや漁民カーストのような低所得の職業を生業とするカーストでは，宝飾品産業のような現金収入が望める仕事への参入が進んでいる．さらに，インタビュー調査の中で，宝飾品産業の労働者の中にはイスラム教徒も若干存在していた．ヒンドゥー社会を中心に構築された宝飾品産業の労働市場が今後どのように変質していくのか，今後も注目していきたい．

第二に，低価格の輸入宝飾品の増加による伝統産業の変容である．前述のように，インドや中国で生産された低価格の宝飾品が多く流通するようになっているが．そうした中，高級品の宝飾品に対する需要がどのように推移するのか，今後ますます注目する必要があろう．2000年代では経済発展の中でダッカを中心に消費市場が拡大してきているため，ハンドメイドの宝飾品の需要は拡大基調であった．しかし，2008年のリーマンショック以降，金の市場価格が上昇しているため，銀を素材とした宝飾品の需要が増加しているという．このように，宝飾品産業はグルーバル経済の影響を受ける存在であり，世界経済とローカル経済の結びつきを考える上でも宝飾品産業について注目していきたいと考える．

文献

土屋純　2006．バングラデシュの商店街．石原潤・溝口常俊『南アジアの定期市』古今書院，183－198.

土屋純　2007．バングラデシュの地方都市における商店街の発展．季刊地理学　59：24－27.

土屋純　2011．バングラデシュの地方都市における商店街発展の意味．宮城学院女子大学キリスト教文化研究所紀要　44：41－67.